

平成26年10月15日

6年生保護者の皆様

江南市立藤里小学校

校長 大 藪 國 義

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力を賜りありがとうございます。

さて、4月に実施しました全国学力・学習状況調査の個人結果につきましては、9月に配付させていただきました。その後、学校としての結果の分析を行いましたので、その状況を下記の通りご報告させていただきます。今回の報告につきましては、国語、算数について今後力を付けていかなければならない課題となることについて、特に特徴的なことを挙げさせていただきました。また、学力形成には生活習慣、学習習慣が大きく関係しています。したがって生活面での状況もあわせてご報告させていただきます。望ましい生活習慣・学習習慣は何よりもご家庭の協力が必要です。今後ともよろしくご支援くださいますようお願い申し上げます。

記

1 生活に関する調査結果（児童質問紙調査結果より）

ご家庭の協力もあり、ほとんどの児童が「朝食を毎日食べる」と回答しました。また、「友達との約束を守っている」「いじめはいけない」という問いに対して「当てはまる」と回答した児童は全国の実績を上回っていました。今後も家庭や地域と連携しながら、規範意識を高めていきたいと思えます。

一方、全国や県の実績と比べて10ポイント以上低く、気になった項目としては、「地域や社会で起こっている問題や出来事への関心」「人の役に立つ人間になりたい」「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する」などがありました。行事やさまざまな体験活動を通して他との関わりに目を向けさせ、向上心を高めていきたいと考えています。

2 教科に関する調査結果

（1）国 語

漢字の書き取りのうち「皿」、「話し合いの観点を整理する問題」の正答率は全国と同程度でしたが、全般にわたって全国の実績を下回りました。特に、「読む」「書く」問題の正答率は全国との差が大きいことが分かりました。読書の習慣化やドリル学習のさらなる充実に向け、基本的な力をしっかりと身に付けさせていきたいと思えます。さらに、故事成語やことわざを日常的な活動の中で用いるような取組も考えていきたいと思えます。

（2）算 数

数と計算の問題で全国や県の実績を上回っているものがありましたが、他の領域では下回っていました。特に、数量の関係を表す式の意味について考えたり直方体の体積を求めたりする問題を苦手としていることが分かってきました。今後は、少人数指導によるきめ細やかな指導を継続しながら、基礎基本の定着に向けてさらに力を入れていきたいと思えます。

一方、平日に1時間以上勉強すると回答した子は5割に届かず（全国は6割）、一方で平日2時間以上テレビやビデオ・DVDを見ると回答した子は7割（全国は6割）でした。家庭では「勉強＝宿題」ととらえている子が多いようです。宿題の量や出し方を工夫すると共に、自分に合った計画の立て方を指導していきたいと思います。

また、予習や復習を含め、計画的に勉強をする子は4割（全国は6割）に対して、休日に2時間以上勉強すると答えた児童は1割を切りました（全国の割合の半分以下）。